



特産果樹生産情報第3号
(6月3日～7月3日)

平成27年6月2日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

**生育に応じた適期管理の徹底を！
おうとうの裂果防止と適期収穫の徹底を！！
西洋なし、ももでは特別散布を実施し、病虫害防除に万全を!!!**

I 要約

生育は、各樹種とも平年より早まっており、なしやももでは平年より10日程度早まっている。

ぶどうは、摘心、摘房、摘粒等の管理作業を適期に行う。

おうとうは、雨よけ施設の利用による裂果防止と適期収穫に努める。

なしは、仕上げ摘果が終了していない園地では、できるだけ早く終わるようにし、適正着果により良品生産と樹勢維持に努める。

ももは、適正着果により良品生産と樹勢維持に努める。

西洋なし、ももでは、適正な間隔で農薬散布を行うために特別散布を実施する。

II 生産情報

1 生育概況

五戸（りんご研究所県南果樹部）では、落花日は西洋なし「ゼネラル・レクラーク」で平年より11日早く、日本なし「幸水」で12日早く、おうとう「佐藤錦」で7日早く、もも「あかつき」で10日早く、うめ「豊後」で8日早かった。

黒石（りんご研究所）では、落花日はおうとう「佐藤錦」で平年より5日早く、もも「川中島白桃」で13日早かった。

露地ぶどうの展葉日は、五戸の「キャンベル・アーリー」及び黒石の「スチューベン」で平年より10日早かった。

無加温ハウスぶどうの「キャンベル・アーリー」は、五戸では満開日が平年より7日早く、三戸（県生育観測ほ）では落花日が5日早かった。

生育ステージ

（りんご研究所県南果樹部）

樹種	年	西洋なし		日本なし	おうとう		もも	うめ
		ラ・フランス	ゼネラル・レクラーク	幸水	佐藤錦	南陽	あかつき	豊後
発芽日	本年	4. 3	4. 5	4. 6	4.19	4.22	4.11	3.19
	平年	4.13	4.14	4.14	4.24	4.26	4.18	3.23
	前年	4.13	4.15	4.14	4.24	4.25	4.15	3.26
展葉日	本年	4.25	4.25	4.26	4.28	4.29	4.28	4.23
	平年	5. 1	4.30	5. 2	5. 4	5. 5	5. 8	4.27
	前年	4.28	4.27	4.30	5. 2	5. 2	5. 3	4.27
開花日	本年	4.27	4.27	4.28	4.27	4.28	4.27	4.14
	平年	5. 7	5. 6	5. 7	5. 2	5. 5	5. 4	4.24
	前年	5. 3	5. 2	5. 3	4.29	5. 1	4.30	4.24
満開日	本年	4.28	4.28	4.29	4.28	4.29	4.28	4.16
	平年	5. 9	5. 8	5. 9	5. 5	5. 7	5. 7	4.26
	前年	5. 4	5. 3	5. 4	5. 1	5. 2	5. 2	4.25
落花日	本年	5. 4	5. 4	5. 6	5. 8	5.10	5. 5	4.24
	平年	5.14	5.15	5.18	5.15	5.17	5.15	5. 2
	前年	5. 9	5. 9	5.13	5.12	5.13	5.12	4.30

注) 平年値：過去20年間の平均値

生育ステージ

(りんご研究所)

樹種 品種	年	おうとう	もも
		佐藤錦	川中島白桃
発芽日	本年	4.19	4.14
	平年	(4.24)	(4.24)
	前年	4.24	4.20
展葉日	本年	5.2	5.2
	平年	(5.5)	(5.11)
	前年	5.2	5.7
開花日	本年	4.27	4.28
	平年	(5.2)	(5.6)
	前年	4.27	5.2
満開日	本年	4.30	4.29
	平年	(5.5)	(5.9)
	前年	5.1	5.5
落花日	本年	5.11	5.4
	平年	(5.16)	(5.17)
	前年	5.10	5.14

注) ()内はおうとうが過去15年間の平均値、ももが過去12年間の平均値

露地ぶどうの生育ステージ

(5月28日現在、りんご研究所)

品種 地域	年	キャンベル・ アーリー	スチューベン	
		五戸	五戸	黒石
発芽日	本年	4.24	4.26	4.24
	平年	4.30	4.30	(4.30)
	前年	4.28	5.2	4.27
展葉日	本年	5.3	5.4	5.1
	平年	5.13	5.13	(5.11)
	前年	5.8	5.13	5.5
開花日	本年			
	平年	6.22	6.25	6.20
	前年	6.8	6.16	6.11
満開日	本年			
	平年	6.25	6.28	6.23
	前年	6.11	6.19	6.13
落花日	本年			
	平年	6.29	7.4	7.1
	前年	6.16	6.25	6.24

注) ()内は過去15年間の平均値

キャンベル・アーリー（無加温ハウス）の生育ステージ
 （5月28日現在、りんご研究所県南果樹部、県生観ほ）

品 種 地 域	年	キャンベル・アーリー	
		五 戸	三 戸
被覆月日	本 年	3. 26	3. 17
	平 年	(3. 22)	(3. 14)
	前 年	3. 24	3. 19
発 芽 日	本 年	4. 11	4. 1
	平 年	(4. 17)	4. 6
	前 年	4. 13	4. 6
展 葉 日	本 年	4. 24	4. 11
	平 年	(4. 29)	4. 15
	前 年	4. 28	4. 20
開 花 日	本 年	5. 23	5. 8
	平 年	(5. 29)	5. 13
	前 年	5. 23	5. 12
満 開 日	本 年	5. 24	5. 11
	平 年	(5. 31)	5. 16
	前 年	5. 26	5. 14
落 花 日	本 年		5. 14
	平 年	(6. 6)	5. 19
	前 年	6. 1	5. 17

注) キャンベル・アーリーの五戸の（ ）内は過去10年間の平均値、
 三戸の（ ）内は過去13年間の平均値

2 作業の重点

(1) ぶどう

ア 新梢の誘引、結束（露地、無加温ハウス）

薬剤や日光のとおりをよくするため、新梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引、結束を行う。

イ 露地栽培

(ア) 摘心（1回目）

実止まりを良くするため、開花1週間前頃に行う。下表に従い、品種や樹勢に応じた摘心を行う。

品種別摘心方法（1回目の摘心）

品 種	樹勢	摘心部位	副梢の取り扱い
スチューベン	強	第1花穂上位5枚	①全ての副梢を欠いた後発生した先端の副梢を残す。
	中		②上位1本の副梢を残し、下位の副梢は摘除する 注)を参考に①か②を選択する。
	弱	第1花穂上位5枚	上位2本の副梢を残し、下位は摘除する。
キャンベル・アーリー		第1花穂上位3~4枚	上位2本の副梢を残す。
サニールージュ シャインマスカット		第1花穂上位5枚	上位1本の副梢を残す。
ポートランド ナイアガラ		第1花穂上位4~5枚	上位2本の副梢を残す。

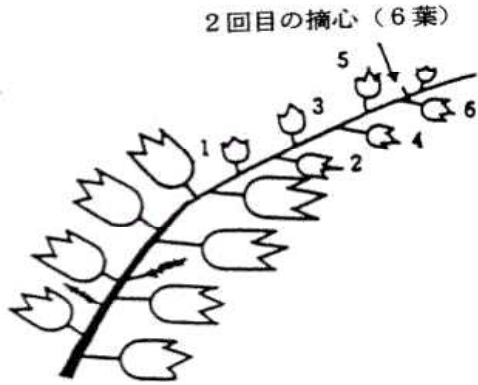
注) 副梢の取り扱い（スチューベン）

①では、着粒密度は高くなるが、果粒が小さくなり、熟期が遅れる。

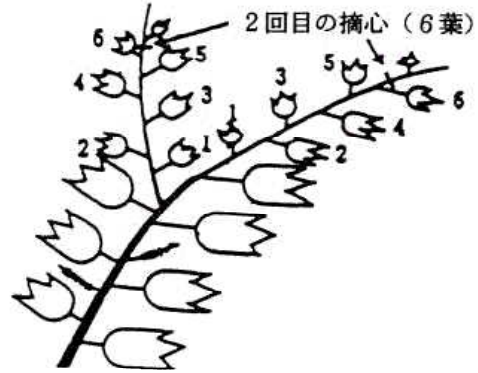
②では、品質、着色は良くなるが、着粒密度がやや劣る。

(イ) 摘心（2回目以降）

2回目の摘心時期は副梢の展葉枚数が8~9枚になった頃で、1回目の摘心後に伸びた副梢を5~6枚残して摘心する。副々梢は摘心部位の先端のみ残して、他はすべて摘除する。これ以降も副々梢が伸びる場合は3~5葉で摘心を行う。



スチューベン、サニールージュ、
シャインマスカットの摘心（2
回目）



キャンベル・アーリー、ポート
ランド、ナイアガラの摘心（2
回目）

(ウ) 花穂の整形

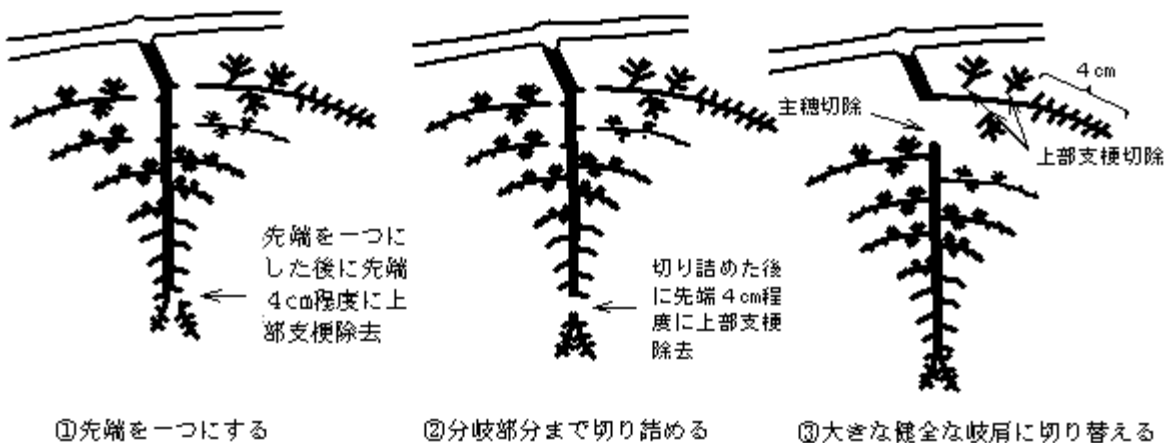
開花5日前頃から1～2花咲き始める時が適期である。

キャンベル・アーリーは岐肩、岐肩下の長い支梗や軸の間隔が広い支梗を切除し、花穂の先端を切り詰める。

スチューベン、ポートランド及びナイアガラは岐肩のみを除去する。

サニールージュは、無核2回及び1回処理の場合、岐肩と上部支梗を除去し、花穂の先端4～5cmを残す。ジベレリン1回目早期処理の場合は、満開後から2回目のジベレリン処理時期までに、着粒数50～60粒を目安に、果房の先端軸長8～10cmの支梗を残し、上部支梗を除去する。

シャインマスカットは、岐肩と上部支梗を除去し、花穂の先端4cmを残す。先端が二股などの異常花穂が多く残さざるを得ない場合は、①先端を一つにするか、②分岐部分まで切り詰めるか、③大きな健全な岐肩に切り替えて、先端4cmとして利用する方法もある。



①先端を一つにする

②分岐部分まで切り詰める

③大きな健全な岐肩に切り替える

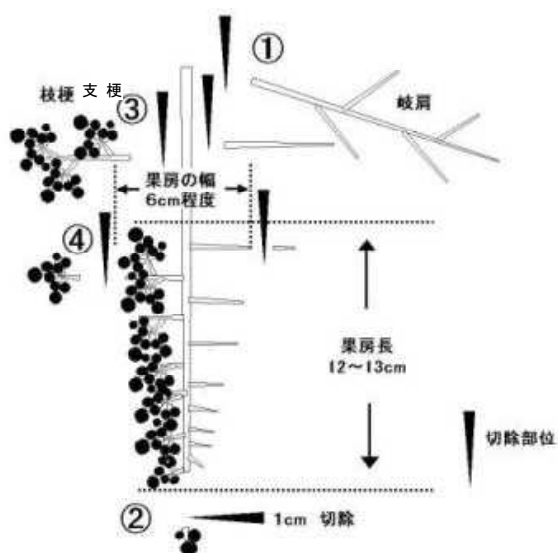
シャインマスカット異常花穂への対応の仕方

(エ) 果房の整形

スチューベンでは、下表に従い整形する(図参照)。下から1cmの位置に線を引いた縦13.5cm、横6cmの型紙を果房にあてがうと正確にできる。

スチューベンの円筒形密着果房を生産するための果房整形法

処理時期	処理方法
開花前(6月上～中旬頃)	・ 岐肩を摘除する(図の①)
果粒が小豆粒大頃 (6月下旬～7月上旬頃)	・ 果房の先端を1cm切除する(図の②) ・ 果房長が12～13cmになるように果房上部の支梗を除去する(図の③) ・ 残した果房は幅が6cm程度になるように切り詰める(図の④)
果粒が小豆粒大以降	・ 無核小粒果を摘粒する



スチューベンの果房整形法



スチューベンの整形用型紙の使用法

(オ) 追肥

追肥は開花直前頃に行う。施肥量は地力の高い園地で標準施肥量の10～20%、地力の低い園地では20%とする。

(カ) 植物成長調整剤の利用

○サニールージュの無核栽培及び着粒密度低減

【無核2回処理の場合】

1回目は無種子化のために満開時にジベレリン25ppm溶液に花房浸漬する。

2回目は果粒肥大促進のために満開10日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

【無核 1 回処理の場合】

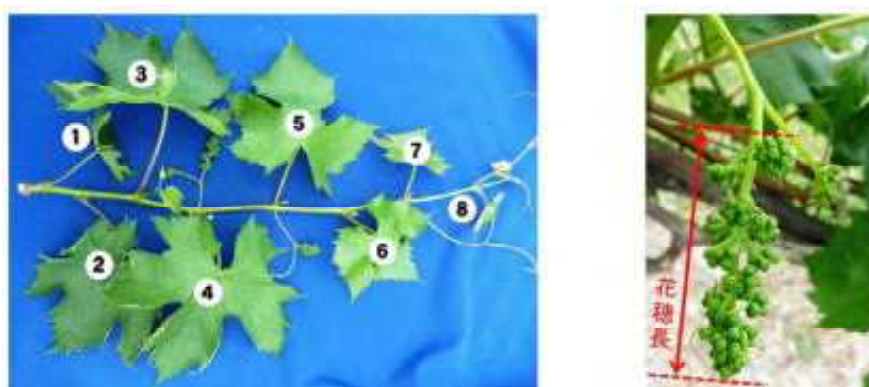
満開 3 日後にジベレリン25ppm溶液に10ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。

【ジベレリン 1 回目早期処理の場合】

サニールージュでは、ジベレリン 1 回目早期処理により、着粒密度を低減させ、摘粒を省力化できる。

1 回目は満開予定日14~20日前（目安として、第 1 花穂長が 5~6 cmで展葉枚数が 8~9 枚頃）にジベレリン25ppm溶液に 3 ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。

2 回目は満開10~15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。



早期処理時の展葉の数え方（左）と第 1 花穂の測り方（右）

○シャインマスカットの無核栽培

シャインマスカットの無核栽培では無種子化を確実にするため、ストレプトマイシン処理を行ってからジベレリン及びフルメット処理を行う。

<手順>

①花穂の整形

ストレプトマイシン処理に先立ち、開花始め頃までに花穂の先端を 4 cm 残して整形する。

②ストレプトマイシン処理

満開予定日14日前~開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房に散布または浸漬する。

③ジベレリン処理

ジベレリン処理は、必ず花穂の先端まで開花してから行う。

【無核3回処理の場合（ジベレリンは2回処理）】

1回目は無種子化のために、満開時～満開3日後にジベレリン25ppm溶液に5ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。処理適期は、花穂先端まで咲ききったときである。

2回目は果粒肥大促進のために、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

【無核2回処理の場合（ジベレリンは1回処理）】

満開3～5日後（落花期）に、ジベレリン25ppm溶液に10ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。



シャインマスカットの満開時の花穂

ウ 無加温ハウス栽培

(ア) 摘心（2回目）

露地栽培に準ずる。

(イ) 摘房

摘房は早めに行うほど養分の浪費が少なく、その効果も大きいですが、キャンベル・アーリーは花振るいしやすいので、結実し、果房の形が決まってから行う。

キャンベル・アーリー、バッファロー（アーリースチューベン）及びサニールージュの着房数の目安は次のとおりである。

○葉数13枚以下で伸びの止まっている結果枝：原則としてすべて摘房

○葉数14～18枚の結果枝：1果房

○葉数20枚前後の結果枝：1～2果房

○葉数25枚以上の結果枝：2果房

シャインマスカットやルビーオクヤマなど大粒種は、1結果枝に1果房とする。

(ウ) 摘粒

摘粒は果粒の数や果房の大きさを制限することにより、果房の品質を向上させるほか、密着型の品種では、裂果を防止する仕上げの作業である。

実施時期は果粒が実止まり、果実の大きさが小豆大の頃（満開後15～25日頃）が適期である。その後、収穫直前まで随時、障害果などを取り除く。シャインマスカットは大豆粒大頃までに終わるようにする。

品種別の摘粒の目安は下表のとおりである。小粒果やさび果などの障害果を除去し、果粒が外向きに並ぶように内側の果粒を除去し、目安の果粒数にする。

品種別目標果房重と果粒数（摘粒の目安）

品 種	果房重 (g)	1粒重 (g)	果粒数 (粒)
キャンベル・アーリー	350	6.0	55~65
バッファロー (アーリースーベン)	350	5.0	65~75
サニールージュ	350	6.0	50~60
ルビーオクヤマ	450	10.0	40~50
シャインマスカット	450	10.0	40~50
ロザリオ・ロッソ	450	10.0	40~50
ロザリオ・ピアンコ	400	8.0	45~55

(エ) 温度管理

生育適温は昼で28℃程度であるので、外気温が30℃を超える日は光合成能力が著しく低下し、また果実の日焼けなど高温障害の発生も懸念されるので、換気を行う。

ハウスのサイドや妻などの被覆資材の除去や巻き上げは、最低気温が10℃以上になる6月上旬に行う。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
開花10日前	アリエッティC水和剤 800倍	ベストガード [®] 水溶剤 1,000倍	2500
	又はオサイト [®] 水和剤80 800倍	又はパダンSG水溶剤 1,500倍	
	又はインターフロアブル 8,000倍	又はアグロスリン水和剤 2,000倍	
	又はオリーワンフロアブル 2,000倍	又はアディオンフロアブル 1,500倍	
開花直前	アリエッティC水和剤 800倍	ベストガード [®] 水溶剤 1,000倍	2500
	又はオサイト [®] 水和剤80 800倍	又はパダンSG水溶剤 1,500倍	
	又はゲッター水和剤 1,500倍	又はジノテフラン水溶剤 ^注 2,000倍	
落花直後	ロブラール水和剤 1,500倍	アグロスリン水和剤 2,000倍	2500
	又はポリバリン水和剤 1,000倍	又はアディオンフロアブル 1,500倍	
	又はスイッチ顆粒水和剤2,000倍	又はジノテフラン水溶剤 2,000倍	
	又はフルビカフロアブル 2,000倍		

注) ジノテフラン水溶剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
開花10日前	アリエッティC水和剤 800倍	ベストガード [®] 水溶剤 1,000倍	2500
	又はインターフロアブル 8,000倍	又はパダンSG水溶剤 1,500倍	
	又はオリーワンフロアブル 2,000倍	又はアグロスリン水和剤 2,000倍	
	又はキノトール水和剤40 600倍	又はアディオンフロアブル 1,500倍	

開花直前	アリエッティC水和剤 800倍 又はゲッター水和剤 1,500倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパダンSG水溶剤 1,500倍 又はジメフラン水溶剤 2,000倍	2500
落花直後	ロブラール水和剤 1,500倍 又はポリベリン水和剤 1,000倍 又はスイッチ顆粒水和剤2,000倍 又はフルビカフロアブル 2,000倍	アグロスリン水和剤 2,000倍 又はアデイオンフロアブル 1,500倍 又はジメフラン水溶剤 2,000倍	2500

注) アリエッティC水和剤は殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する(物理性の悪化)。

(イ) ベと病対策 (スチューベン対象)

軟弱な生育を避けるために、窒素肥料を施用し過ぎない。発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取って処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

発生が多い園地では、「開花10日前」にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40を、「開花直前」にアリエッティC水和剤を選択し、「落花直後」にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。ただし、ランマンフロアブルはポリベリン水和剤と組み合わせない。

(ウ) 晩腐病対策

発病果粒や発病果房は見つけ次第摘み取って、土中深く埋めるなどの処分をする。園地内の排水や通風を良くし、過湿にならないようにする。

発生が多い園地では、「落花直後」にスイッチ顆粒水和剤又はポリベリン水和剤を選択する。

(エ) 灰色かび病対策

新梢の摘心や誘引を適切に行い、園地内の通風を良くする。発病葉、発病花穂、発病果及び発病枝はできるだけ早く取り除き、土中に深く埋めるなどの処分をし、他へ伝染しないようにする。ハウス栽培では室内の換気に努め、過湿にしない。

例年、発生が多い園地では「開花直前」にゲッター水和剤を選択する。

キャンベル・アーリーでは、「開花10日前」の薬剤散布後、やませなど天候不順が続く、次回の「開花直前」までの散布間隔が開き過ぎると灰色かび病の多発が懸念されるので、「開花見込みの1週間前」にピクシオDF2,000倍を特別散布する。

(オ) 褐斑病対策 (キャンベル・アーリー対象)

樹勢の衰弱している樹に発生が多いので、肥培管理に注意して、適正着果を守り樹勢の維持に努める。

発生が多い園地では、「開花10日前」と「開花直前」にオーソサイド水和剤80、

「落花直後」にポリベリン水和剤を選択する。ただし、「開花10日前」及び「開花直前」に灰色かび病又は黒とう病対策でアリエッティC水和剤を散布すると、この時期の褐斑病対策の防除剤は必要ない。

(カ) 黒とう病対策（スチューベン対象）

発生が多い園地では、「開花直前」にアリエッティC水和剤、「落花直後」にポリベリン水和剤を選択する。

(キ) コウモリガ対策

園地の清掃に努める。特に、幹の根元は清潔にする。被害は見つけ次第、虫糞を取り除き幼虫を捕殺する。

発生が多い場合は、6月上旬に樹幹部にガットサイドS 1.5倍を塗布又は散布する。

(ク) コガネムシ類対策

早期に園地を見回り、成虫を振り落とし捕殺する。

「落花直後」に発生が多い園地では、アグロスリン水和剤又はアディオンフロアブルを選択する。

(ケ) ハダニ類対策（スチューベン対象）

「落花直後」から「大豆粒大」に、発生状況に応じてマイトコーネフロアブル1,000倍又はカネマイトフロアブル1,000倍を特別散布する。

(2) おうとう

ア 裂果防止対策

果実を雨にあてないことが最も効果的であるので、雨よけ施設を利用する。

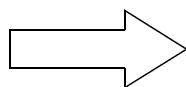
被覆時期は、着色した果実が見え始めた頃からとし、樹体に悪影響を及ぼさないよう収穫が終わったらできるだけ早く被覆を除く。

高温障害防止のため、樹冠上部と雨よけ施設のフィルム面との間には1.5～2.0 m程度の空間を作るようにする。

イ 葉摘みによる着色の向上

葉摘みの時期は、概ね収穫予定の7～10日前頃の果実の着色がある程度進んでから行う。摘み取る葉は、短果枝の基部の果実に直接覆いかぶさっている葉を主

体に実施する。過度の葉摘みは、果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不良、樹勢の低下を招くおそれがあるので摘み取る量は最小限にとどめる。



葉摘み前

葉摘み後

葉摘みの方法

ウ 収 穫

収穫時期の判定は、満開日からの日数を目安（※右表参照）にしながら、果皮の着色程度、食味、果実の用途などから総合的に行い、収穫は成熟したものから順次数回にわたって行う。

収穫はなるべく朝夕の涼しい時に行うが、日中の高温時に収穫する時は、収穫後直ちに冷涼な日陰に置いて果実温を下げ、鮮度を保つ。

やむを得ず降雨中に収穫した場合は、扇風機などを利用して果実に乾燥させてから出荷する。

品 種	満開日から 収穫始め までの日数
紅さやか	45～50日
佐藤錦	45～55日
北 光	50～60日
紅秀峰	60～70日
南 陽	60～70日
サミット	60～70日

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺 菌 剤	殺 虫 剤	散布量 ／10 a
満開35日後	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はアンビルフロアブル 1,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	—————	5000
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はインターフロアブル 5,000倍	—————	5000

注1 「満開35日後」に、紅さやかななどの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

注2 農薬の使用時期は、アンビルフロアブルが「収穫7日前まで」、オンリーワンフロアブル、インターフロアブル、アミスター10フロアブル、ナリアWDGが「収穫前日まで」である。

注3 ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

(イ) 灰星病対策

被害果実は伝染源となるので、見つけ次第摘み取って土中深く埋めるなどの処分をする。

「満開35日後」以降、多発が懸念される場合は、佐藤錦の「収穫見込みの7日前頃」にルビゲン水和剤3,000倍、インダーフロアブル5,000倍、パスワード顆粒水和剤1,500倍のいずれかを特別散布する。ただし、E B I 剤は薬剤耐性の懸念があるので連続使用しない。(E B I 剤：アンビルフロアブル、オーシャイン水和剤、ラリー水和剤、ルビゲン水和剤、オンリーワンフロアブル、インダーフロアブル)

(ウ) 炭疽病対策

発芽しない枝や枯死した花束状短果枝などは伝染源になるので、切り取って処分する。

発生が例年多い園地では、「満開35日後」と「収穫前」の基準薬剤の中からアミスター10フロアブル、ナリアWDG、オンリーワンフロアブルのいずれかを選択する。

(エ) ショウジョウバエ類対策

被害果や取り残し果実はショウジョウバエ類の発生源となり、園内密度が上昇するので、速やかに処分する。

発生が懸念される場合は、「満開35日後」及び「収穫前」にテルスターフロアブル4,000倍又はスカウトフロアブル3,000倍を特別散布する。

(オ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

「満開35日後」及び「収穫前」に発生が見られた場合は、ショウジョウバエ類対策でテルスターフロアブル又はスカウトフロアブルを特別散布すると防除剤の必要はない。

(3) な し

ア 摘 果

仕上げ摘果が終了していない園地では、できるだけ早めに終える。

果実を残す程度は、西洋なしのラ・フランスで4頂芽に1果、ゼネラル・レクラークで5.5～7頂芽に1果、日本なしの幸水で3～4頂芽に1果とする。

イ ジベレリンペースト（植物成長調整剤）による熟期促進

日本なしでは、ジベレリンペーストの利用により熟期を促進できる。摘果終了後、満開30日～40日後に、果梗に1果当たり20～30mgを専用のアタッチメントを用いて塗布する。

なお、塗布する際、果面にジベレリンペーストが付着すると、さびなどの原因となるので注意する。

ウ 夏季管理

(ア) 徒長枝の整理

徒長枝は、将来、結実枝として使用するもの以外は、早めに剪去する。徒長枝を切る際には、高切りせずに、枝の基部からきれいに剪去する。

(イ) 誘引

適期は、枝がやわらかくなる6月頃である。主枝候補枝、更新枝を30度前後に誘引する。特に幼木時代は直立性が旺盛なため、誘引によって樹形を整える。

エ 追肥

6月中旬に標準施肥量の20%程度を追肥する。なしの標準施肥量は、成木10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸6kg、カリ12kgである。

オ 西洋なしの病虫害防除

本年は生育が早く進んでおり、例年どおりの計画で薬剤散布すると、散布間隔が開きすぎる。そこで、適正な間隔で農薬散布を行うために、例年の「落花40日後」と「7月上旬」との間に「落花50日後」を新たに設けて、特別散布を行う。なお、薬剤の年間使用回数には十分注意する。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花30日後	ベルコート水和剤 1,000倍 又はデランフロアブル 1,000倍	_____	4000
落花40日後	オキシラン水和剤 500倍 又はキャプレート水和剤 600倍	_____	4000
落花50日後 (特別散布)	ベルコート水和剤 1,000倍	スカウトフロアブル 2,000倍	4500
7月上旬	ストロビートライフフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	ダイジロン水和剤34 1,000倍 又はダースバンドF 3,000倍	4500

注) ストロビルリン単剤のストロビートライフフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

(イ) 輪紋病対策

6～7月の幼果期は最も感染しやすいので10日間隔の薬剤散布を守る。なお、散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布する。

(ウ) 胴枯病対策

主幹や主枝など大枝の病患部は見つけ次第、削り取ってトップジンMペースト又はバッチレートを塗布する。小黒点病斑が形成されている枝や枯死した枝は見つけ次第、切り取って処分し、バッチレートを塗布する。

発生が多い園地では「落花30日後」及び「落花40日後」にトップジンM水和剤1,500倍も使用する。

(エ) 黒斑病対策（ゼネラル・レクラーク対象）

徒長枝は、発生源となりやすいので、不要なものを剪去する。発病果は見つけ次第、摘み取って土中に埋める。

「落花40日後」はオキシラン水和剤を選択する。

(オ) モモシンクイガ対策

幼虫が脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

発生が早い園地では、「落花40日後」にスタークル顆粒水溶剤2,000倍又はアルバリン顆粒水溶剤2,000倍も使用する。

(カ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

発生が見られた場合は、MR. ジョーカー水和剤2,000倍を特別散布する。

(4) も も

ア 摘果

果実を残す程度は、短果枝では4～5本に1果、中果枝では1本に1果、長果枝では1～3果とする。着果量が少な過ぎると品種によっては核割れ（倉方早生など）を生じ、果実が大きくなっても、品質、収量が落ちるので注意する。

なお、満開44～75日後の硬核期（果実の肥大が鈍化し、核が硬化する時期）に過度な摘果を行うと、核割れや裂果を起こしやすいので注意する。

イ 新梢整理

新梢の伸長の盛んな6～7月と、収穫後の9月まで適宜行う。

太枝の背面や先端部から伸びた徒長的で生育旺盛な新梢は除去し、日当たりを良くする。

日焼け対策として、徒長枝は葉芽を必ず残して5～10cm程度に切る。

ウ 袋かけ

袋かけの効果としては、病虫害の防除、裂果の防止、着色の向上、風雨による果皮表面のさびの発生防止などがある。

袋かけの時期は、病虫害対策を主とする場合は、硬核期前に仕上げ摘果を終わらせ、薬剤散布後とし、6月末までに終える。袋かけ作業が遅れて6月20日以降になるときは、モモシクイガ対策として防除剤を散布してから袋かけをする。袋はよくふくらませ、結果枝を抱かせて止金でしっかり止める。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

本年は生育が早く進んでおり、例年どおりの計画で薬剤散布すると、散布間隔が開きすぎる。そこで、適正な間隔で農薬散布を行うために、例年の「落花40日後」と「7月上旬」との間に「落花50日後」を新たに設けて、特別散布を行う。なお、薬剤の年間使用回数には十分注意する。

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花30日後	マイコシールド 2,000倍 (落花20日後～落花40日後に1～2回)	スチオン水和剤40 800倍 又はダースバンDF 3,000倍	4000
	チウラム水和剤 ^{注1} 500倍 又は水和硫黄剤 ^{注2} 500倍		
落花40日後	ダコニール1000 1,000倍 又はチウラム水和剤500倍	—————	4000
落花50日後 (特別散布)	ダコニール1000 1,000倍	サイノックス水和剤 1,000倍	4000
7月上旬	ダコニール1000 1,000倍 又はバルコートフロアブル 2,000倍	バイスロイドEW 2,000倍 又はアグロスリン水和剤 1,000倍	4000

注1 チウラム水和剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル

2 水和硫黄剤：サルファーズル、イオウフロアブル

(イ) 灰星病対策

樹上の被害果は見つけ次第、摘み取って土中深く埋めるなどの処分をする。

多発すると薬剤だけでは防除しきれなくなるので、被害果の処分など耕種的な対策も合わせて行う。

(ウ) せん孔細菌病対策

6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑は重要な伝染源になるので、速やかに枝ごと切り取って処分する。風を強く受ける地帯で多発するので、防風網の利用などの耕種的対策も合わせて行う。

「落花20日後」～「落花40日後」にマイコシールド2,000倍も1～2回使用する。



せん孔細菌病（夏型枝病斑）

(エ) モモシンクイガ対策

幼虫が脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

(オ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

発生が見られる園地では、「落花30日後」にスミチオン水和剤40を選択する。「落花40日後」には、ダントツ水溶剤2,000倍も特別散布する。

(カ) ハダニ類対策

不要な徒長枝は早めに切り取って処分する。

発生状況に応じて、適宜、殺ダニ剤（スターマイトフロアブル2,000倍、ダニゲッターフロアブル2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍、マイトコーネフロアブル1,000倍、ダニサラバフロアブル1,000倍のいずれか）を使用する。ただし、スターマイトフロアブル及びダニサラバフロアブルは7月上旬以降に使用する。

なお、殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同一薬剤は年1回の使用とする。

(5) うめ・あんず

ア 新梢管理

6月中旬頃までに太枝の背面あるいは先端から伸びた勢力の強い枝は、果実肥大に影響を及ぼしたり日当たりや風通しを悪くするので取り除く。

イ 支柱入れ、枝吊り

枝葉の繁茂と果実肥大による重さで主枝が次第に下垂するので、枝裂けや樹形の乱れが生じないうちに、支柱を立てるか枝吊りを行う。

ウ 収穫

(ア) うめ

梅漬け用は果面の地色が僅かに抜けて、やや白みを帯びた頃である。梅酒用

はこれより2～3日早めのまだ青いうちに収穫する。

(イ) あんず

梗部の色が薄れて黄色に変わり始めた頃（果実がまだ軟らかくならないうちに）が適期である。また、収穫適期の期間が短いので、適期を逃さず、速やかに収穫を行う。

エ 病虫害防除

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花30日後	オーソサイド水和剤80 800倍 又はイオウフロアブル 500倍	—————	350ℓ
6月上～中旬	イオウフロアブル 500倍	—————	350ℓ

(イ) 灰星病

被害枝は見つけ次第、切り取って処分する。

発病果は見つけ次第、摘み取って処分する。

(ウ) 変葉病対策

発病部位は見つけ次第、摘み取って土中に埋めるなどの処分をする。また、発生園の周辺に自生しているヤマカシユウ（中間宿主）を処分する。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

次回の発行は平成27年7月3日（金）の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 3265, 3261
 017-734-9492直通